

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

バン

Gallinula chloropus chloropus (Linnaeus, 1758)

植田睦之（バードリサーチ）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 鳥類分科会



環境省 編

令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：植田睦之，2026．バン．環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 428-432．

Citation: Ueta, M., 2026. *Gallinula chloropus chloropus* (Linnaeus, 1758). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 428-432.

バン

Gallinula chloropus chloropus (Linnaeus, 1758)

カテゴリー判定結果		絶滅危惧Ⅱ類 (VU)		A2	
基準 A: VU	基準 B: —	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —	
A2. 過去 10 年間もしくは 3 世代のどちらか長い期間を通じて、30%以上の減少があったと推定され、その原因がなくなっていない、理解されていない、あるいは可逆的でない。 【比較年】 10 年（世代時間不明） 【過去の状況】 1997-2002 年に実施された全国鳥類繁殖分布調査、1993-1997 年に実施された東京都鳥類繁殖分布調査がある。いずれも減少が示されている。 【近年の状況】 2016-2021 年に実施された全国鳥類繁殖分布調査および東京都繁殖分布調査がある。また 2008-2022 年の減少率を推定したモニタリングサイト 1000 里地調査でも-9.4%/年の減少が示されている。ここでは全国鳥類繁殖分布調査の現地調査コース数を示した。1990 年代調査のコース数は 87、2010 年代調査のコース数は 42 で、減少率は 52%であるが、記録メッシュ数や、里地の調査結果ではそこまで減少していないこと、調査の間隔が 10 年より長いため、30%以上を選択した。					
評価分科会： 鳥類分科会					

概要

バンは全国の水辺に生息する種で、主に留鳥だが、北日本では夏鳥。1970 年代より継続的に減少しており、湿地の減少や水田の整備などによる生息環境の悪化が原因と考えられる。

基礎情報

【形態】

全長 296-350 mm、翼長 158-170 mm、心臓長 45-50 mm、体重 198-405 g。

雌雄同色で、雄の方はやや大きい。全身黒から黒褐色、脇腹に白い縦線と下尾筒の両側に白い部分がある。くちばしから額（額板）にかけての赤が目立つ。くちばしの先端のみは黄色い。脚は大きく、緑がかった黄色。幼鳥は全身褐色で額板は発達していない。

【生活史】

全国で留鳥として繁殖し、北日本では夏鳥。水辺や水田の草むらで営巣する。巣の外径は 25-30 cm、5 月中旬から 8 月上旬に長径 35-46 mm、短径 25-32.2 mm ほどの卵を 5-10 卵産む。種内托卵することもある。雄雌ともに抱卵し、19-22 日で孵化する。植物の種子や葉、昆虫や水生生物などを食べる。

【生息環境】

湖沼、河川、蓮池、水田などの水辺に生息し、ヨシやマコモ、イなどの密生地に生息する。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】田地・畑地，耕作放棄地，湿地・湿原・細流，河川中流域，ため池・池沼，湖・ダム湖
	【陸域_平地部 海岸部】田地・畑地，耕作放棄地，湿地・湿原，河川中流域，河川下流域，ワンド，ため池・池沼，潟・湖・ダム湖
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域，(4) 河川・湿地地域

【分布域】

南西諸島などの島嶼部を含め全国に生息する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

繁殖期の分布域には大きな変化はないが、減少傾向にあり、全国鳥類繁殖分布調査で確認されたメッシュ数は 1970 年代の 211 メッシュから、1990 年代は 182 メッシュに、そして 2010 年代は 173 メッシュに減少している。現地調査で記録されたコース数の減少はさらに大きく、1990 年代の 87 コースから 2010 年代は 42 コースに半減している。これに対して、越冬期の分布は拡大しており、清棲（1978）は本州では夏鳥としているが、1984-1986 年には本州の太平洋側では越冬するようになっており、2016-2022 年には南東北まで越冬するようになっており、北海道の記録もあった。冬期の気候の緩和が影響しているものと考えられる。

【生息地の現況】

開発による湿地の減少、水田の整備などで生息環境は悪化しているものと考えられる。

【個体数の現況】

全国鳥類繁殖分布調査の現地調査では 1990 年代は 289 羽記録されていたのが、2010 年

代は 126 羽に減少していた。

存続を脅かす要因

開発による湿地の減少、湿地の乾燥化に伴う植生遷移で生息閑居が減少していること、水田の整備に伴う水生生物の減少などで食物が減少していることなどが減少要因として考えられる。

要因の区分：	(過去)	湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備，農薬汚染/化学物質汚染，遷移進行・植生変化/自然遷移
	(現在)	湖沼開発，河川開発，湿地開発，圃場整備，農薬汚染/化学物質汚染，遷移進行・植生変化/自然遷移

特記事項

特になし

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	—	—	—
第4次 2019:	—	—	—
第4次 2018:	—	—	—
第4次 2017:	—	—	—
第4次 2015:	—	—	—
第4次:	—	—	—
第3次:	—	—	—
第2次:	—	—	—
第1次:	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【青森県】希少野生生物(C ランク)，【岩手県】留意，【山形県】準絶滅危惧(NT)，【福島県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【埼玉県】準絶滅危惧2型(NT2)(繁)，【千葉県】重要保護生物(B)，【東京都（本土部）】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【東京都（区部）】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【東京都（北多摩）】絶滅危惧ⅠB類(EN)，【東京都（南多摩）】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【東京都（西多摩）】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【富山県】準絶滅危惧(NT)，【石川県】準絶滅危惧(NT)，【愛知県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)(繁殖)，準絶滅危惧(NT)(越冬)，【三重県】情報不足(DD)，【滋賀県】希少種，【和歌山県】準絶滅危惧(NT)，【宮崎県】準絶滅危惧(NT-g)

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

参考文献

- 環境省自然環境局生物多様性センター，2024. 重要生態系監視地域モニタリング推進事業 (モニタリングサイト 1000) 里地調査 2005-2022 年度とりまとめ報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター，富士吉田.
- 清棲幸保，1979. 増補改訂版日本鳥類大図鑑Ⅱ. 講談社，東京.
- 植田睦之・奴賀俊光・山崎優佑，2023. 全国鳥類越冬分布調査報告 2016-2022 年. 144pp. 特定非営利活動法人 バードリサーチ・公益財団法人 日本野鳥の会，東京.
- 植田睦之・植村慎吾，2021. 自然環境保全基礎調査 全国鳥類繁殖分布調査報告 日本の鳥の今を描こう 2016-2021 年. 176pp. 鳥類繁殖分布調査会，東京.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Gallinula chloropus chloropus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Gallinula chloropus chloropus* is listed as VU under criteria A2.

A. Reduction in population size based on any of the following:

2. An observed, estimated, inferred or suspected population size reduction of $\geq 30\%$ over the last 10 years or three generations, whichever is the longer, where the reduction or its causes may not have ceased OR may not be understood OR may not be reversible.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Farmland, Abandoned farmland, Wetland/Marsh/Stream, Middle river basin, Reservoir/Pond, Lake/Dam 【Terrestrial/Freshwater area_Plain, Beach】 Farmland, Abandoned farmland, Wetland, Middle river basin, Lower river basin, Inlet, Reservoir/Pond, Lagoon/Lake/Dam
Threat types:	Lake development, River development, Wetland development, Field preparation, Pesticide/Toxic chemical pollution, Successional progression/Vegetation change/Natural succession
Law designation status for conservation	Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者:	植田睦之（バードリサーチ）
Author:	Mutsuyuki Ueta

公表年月：2026 年 3 月